

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2019年度

芝浦工業大学 工学部 電気工学科
総合電気工学コース

エンジニアリング系学士課程用
(電気・電子及び関連の工学分野)

Electrical Engineering

提出日 2021年 1月 31日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

芝浦工業大学 工学部 電気工学科

Department of Electrical Engineering

College of Engineering, Shibaura Institute of Technology

(2) プログラム名

総合電気工学コース

(3) Program Title (プログラムの専門分野名の英語表記)

Electrical Engineering

(4) 学位名

学士 (工学)

1.2 プログラム概要 (プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する)

1. プログラムの沿革 (これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など)

芝浦工業大学は、1927 年に有元史郎が東京大森に創設した東京高等工商学校を前身として創立された。1949 年の学制改革に伴い新制大学として芝浦工業大学を設置し、工学部に機械工学科、土木工学科を開設した。翌 1950 年には、教育・研究環境の整備を図りながら学科増を行い、この一環として電気工学科が設置された。

現在は工学部 11 学科、システム理工学部 5 学科、デザイン工学部 1 学科、建築学部 1 学科、ならびに大学院理工学研究科(修士課程ならびに博士課程)で構成されている。2019 年 4 月現在、工学部は学生数 4440 人、教員 216 名である。また電気工学科は学生数 437 名、教員 15 名、非常勤講師 15 名である。「総合電気工学コース」の在籍者は、4 年生 95 名である。2014 年度入学生より、全員 JABEE コース(電気工学科)履修となった。

修了生の主な進路は、製造業、建設設備業、電気エネルギー分野、情報産業等への就職と大学院進学であり、「総合電気工学コース」で学んだ様々な知識を生かして、様々な分野で活躍している。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

本学は創立以来、一貫して実学主義を掲げ「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」という、ものづくりの本質を見据えた工学教育一筋に 90 年の歴史を歩んできた。

近年の科学技術の進歩はめざましく、まさに高度情報化社会を形成する様相を示しつつあり、高度ハイテク化に向かう産業界の構造変革とともに電気系に関連して必要とされる学問領域はますますその裾野は広がってきている。また企業活動のグローバル化、多種多様な産業形態の出現により、業務に必要な専門知識は勿論のこと、問題解決能力、エンジニアリングデザイン能力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、技術者倫理などに関しても社会的要請が高まっている。

そこで、本学科では、広範囲における電気技術に関連する領域のなかで、“エネルギー&コントロール”を学科の基本的な柱としたカリキュラム設計を行っている。具体的には、電力・エネルギー系、電気材料・デバイス系、システム制御・ロボット系、の 3 分野をコアとして、基礎学力ならびに専門知識の育成を目標としている。さらに JABEE 基準に準拠しつつ、グローバル化対応を始めとする昨今の社会的要請にも可能な限り対応できるよう、種々の機会を通してカリキュラム設計の見直しを進めている。これにより、電気工学を中心として、他の分野にも配慮したカリキュラム設計が可能となっている。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準

入学生については、近年の志願者数の増加により、難関の入学試験をパスした質の高い学生が集まっている。例えば、過去 5 年間の前期入試の競争率は 3.7 倍(2015 年度)、3.1 倍(2016 年度)、2.2 倍(2017 年度)、3.7 倍(2018 年度)、3.0 倍(2019 年度)となっている。これらのこととは、電気工学科における教育の取り組みが、社会的に認知されるようになってきていることの表れと考えられる。

本プログラム「電気工学科」の目的は、「広範な電気工学基礎をベースに、全地球的視野に立って、電気工学およびその社会への適用にかかる課題の探究および問題解決能力を

有し、国際的に通用する技術者を育成する」ことである。学習・教育到達目標の設定においては社会の要求や学生の要望を配慮すると共に、その技術者教育のレベルは教育の質保証の視点をも加味して、技術士一次試験の専門科目（電気電子部門）の一次試験免除の水準以上に達することを想定している。また、資格取得必要科目を履修することにより電気主任技術者、電気工事士、第一級陸上無線技術士、第一級陸上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士の資格取得または受験資格を得ることができる。さらに教職課程科目履修により教員資格(理科、工業)を得ることができる。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻、関連コース等）との関係

非 JABEE 認定コースである「応用電気工学コース」は、「各自の個性を尊重し各々の興味と能力を発見し、成長させる場を提供することにより、電気工学にかかる多様な専門分野それぞれに特化したスペシャリストを育成すること」を目的としてきた。しかし、基底科目を卒業要件から除外したことや、グローバル化が進む中、英語科目の必要取得単位数を見直し「総合電気工学コース」と同一とするなど、カリキュラムの改善を進めた結果、両コースの差は当初に比べ小さくなってきた。

このため当該コースを整理統合し、2014 年度入学生より JABEE 新認定基準に準拠した「電気工学科」に統合するプログラム変更を 2013 年度に実施した。また、教育プログラムの質保証 (outcomes による評価) を行うために必要な課題整理と対応策を検討した。

本プログラム修了生のうち、毎年 30 名程度が本学大学院に進学している。中には他大学へ進学することもある(2017 年度実績、東京工業大学 1 名、慶應大学 1 名)。

5. カリキュラム上の特色

工学部のカリキュラムは共通科目群と専門科目群から構成されており、工学部の卒業要件は、取得単位数が 124 単位以上となっている。電気工学科においては、それらのうち専門科目 66 単位以上（必修 41 単位、選択必修 10 単位以上を含む）の取得、および共通科目に

については 48 単位以上取得することを条件として定めている。共通科目群と専門科目群の教員間の調整・連携を図るため、意見交換会を定期的に設けている。

本プログラムのカリキュラムは、最も基礎的な授業科目を必修科目に設定し、下級学年から開講される実験の導入と相俟って、これを体得しながら理解を深めていくように工夫されている。また、その実施に当たっては、きめ細かい「手作り教育」を行うことにより、エンジニアリングデザイン能力、ならびにコミュニケーション能力の育成を含む学習・教育到達目標を達成するための配慮がなされている。その典型として、1 年次後期に開講されている「製作実験」がある。これは低学年時から、ものづくりへの興味をかき立てると共に、チームワーク力ならびにリーダーシップを高める試みとして定着している。

6. その他の特色

本学において取り組んでいるグローバル人材育成推進事業の一環として、国際感覚を持ち国際的に通用する人材育成を目指し、海外の学生らと共同作業を行うグローバル PBL の導入を進めている。また、2013 年度後期より、一部の専門科目を英語で開講した。2018 年度は 5 科目と「電気工学ゼミナール」「電気実験 1」～「電気実験 4」の一部が英語で開講されている。また、2015 年度から「電気工学国際インターンシップ A」「電気工学国際インターンシップ B」を開講している。本件は、グローバル化対応として今後さらに拡大予定である。

引用・裏付資料名

概要-11 電気工学科 総合電気工学コース(JABEE コース)に関する内規 (2015 年度改訂版)

概要-2 総合電気工学コースの学習・教育到達目標(2019 年度入学生用)

第 1811 回工学部教授会資料

第 1901 回工学部教授会資料

1.3 最近の教育改善活動の状況

大きな改善点は下記の通りである。

●教育プログラムの一本化と JABEE に準拠したプログラムの終了

電気工学科では、2004 年度に JABEE に準拠した「総合電気工学コース」と非準拠の「応用電気工学コース」の二つのコースを設置し、以来、二つのコースを維持して学生の教育に取り組んできた。その間、「総合電気工学コース」は、2006 年に初回認定審査を受審し JABEE の認定を受け、2011 年および 2017 年の継続審査を経て JABEE 認定の教育プログラムとして現在に至っている。

しかしながら、二つのコースを設けてから 9 年の間に、各科目における教育方法や評価基準および修了要件の改善と見直しによって、両コースの差は当初に比べ小さくなってきた。そこで、「応用電気工学コース」を廃止し、JABEE 基準に準拠し認定を得ている 1 コースのみにすることを学科会議で決定した。既に、2014 年度入学生から適用となっている。「応用電気工学コース」は在籍する学生の修了をもって廃止予定である。

なお、2023 年の継続審査は受審せず、JABEE に準拠した「総合電気工学コース」は 2018 年度入学生（2022 年度卒業まで）で終了する。

●学習・教育到達目標の改訂

JABEE では 2012 年の改定によって、新基準が定められた。これを受け、新基準(i)に対応する学習・教育到達目標を追加するとともに、他の目標の見直しも行い「2014 年度学習・教育到達目標」の A～I を定め、2014 年 4 月に公開した。2015 年度は変更がなかったが、2016 年度は 2014 年度に公開されたものについて、2 か所文言の加筆を実施し公開した。

●グローバル人材育成への取り組み

本学工学部では、文科省より提案されている「大学改革実行プラン～社会の変化のエンジンとなる大学づくり～」に「グローバル人材育成推進事業」として応募し、2013 年に採択された。この推進事業の一環として、年に一度は TOEIC を受験することを義務付け、工学

部としは年度初めのガイダンス期間中に全学年学科に対して TOEIC 試験を実施している。

また、ジェネリックスキルの向上を支援するために PROG の受験も推奨し、仕事のできる人材育成に努める体制を整備した。これらが振返りの機会となり気づきや自己認識できる能力の育成につながることを期待している。さらに、科目として「国際インターンシップ」が新設され、電気工学科の学習・教育到達目標にその趣旨が合致することから、現時点では選択指定科目ではあるが電気工学科の修了要件の一つに加えている。

本学では 2013 年後期より、ブラジルから科目等履修生の受け入れを開始し、電気工学科では 2014 年 4 月から各学期数名を受け入れた。学生間のみならず受け入れ研究室においては、国際交流の推進や研究室活動の活性化に大きく貢献している。

●履修制限と GPA の導入

本学工学部では、学修の質向上を目的に 2010 年から履修制限の厳格化と GPA の導入を始めている。半期に履修できる単位数は最大 25 単位、通年では最大 49 単位である。GPA は、今のところ修了判定には用いていないが、習熟度の目安として成績表に成績判定結果とともに併記して、気づきや自己認識の助けとなるようにしている。これらの取組は教育の質保証の視点からも有効であり、今後も改善を加えながら検討を継続していく。

●男女共同参画

電気工学科の女子学生の比率が本学で最低である現状を踏まえ、オープンキャンパスにおける女子学生コーナーを設置し、来場者とのコミュニケーションを図った。また、2015 年度より女性の専任教員が加わった。

●教育・研究力の向上

FD 活動、学会活動、留学生受け入れ整備などを通じて教育・研究力の向上に努めた。また、科研費、国プロ、産学協同研究にも力を入れている。また、最近では査読付論文などの業績のみならず、教科書や啓蒙書の執筆あるいは招待講演の依頼などの件数も増えている。これらの情報は、大学が管理公開している教員プロフィールなどにより公開されており、大

学が目指している「工科系大学のトップランキング」のブランド力向上にも貢献している。

●その他学生支援

学生への成績通知は、以前は半期に一度、印刷物の配布によって行っていた。現在は学修支援システム S*gsot を構築して、学生自身がインターネットを通して何時でも履修登録や成績の確認ができるシステムが整備されている。本学では各学科とも、学年ごとに担任教員を置いているが、教員も S*gsot にアクセスして学生の情報を確認することができるとともに、TALENT システムにより適切な指導ができる体制を整えている。工学部では、学生指導のための「学修指導の手引き」を作成して、漏れの無い適切な指導に努めている。また大学主催の父母懇談会の実施は、年々好評を得ている。

●学科組織の見直し

2015 年度より、学科内組織の見直しを行い、学科主任のもとに、学科所掌事項として、学生受入委員会とグローバル推進委員会、また JABEE 関連事項について、それぞれ対応する委員会を整備した。

引用・裏付資料名

- ・表 1 「学習・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応」
- ・表 2 「学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準」
- ・表 3 「学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明」
- ・表 4 「学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ」

概要-3 コース一本化について 2013-4-12

概要-4 2017 年度入学生用 学習・教育到達目標

概要-5 電気工学科 組織ならびに分担表

芝浦工業大学教員データベース (T30)

1.4 自己点検結果編の総括文

※ 自己点検結果編を総括し、認定基準に対するプログラム全般の状況について簡単に説明してください。認定基準に対する適合度が特に高い項目や、今後さらに強化が必要な項目など、認定審査を行う際にポイントとなる事項についても言及してください。

認定基準に対するプログラム全般の状況については、「2. 自己点検結果編」に記載のとおりであり、基準1～4に対して、ほぼ全ての項目で、「○：認定基準の要求事項を満たしている」との自己判定結果となった。「○：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている」と自己判定した項目は、基準2の2項目であった。一方、「△：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある」と自己判定した項目はなかった。

我々のプログラムは、全般的に認定基準に対する適合度が高いものが構築され、それに沿った運用が行えているものと判断する。これは、2004年度より JABEE に準拠したプログラム「総合電気工学コース」を設定するにあたり、毎年、学科内の JABEE 委員会において、全教員の参加による、プログラムが育成しようとする自立した技術者像、およびプログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力としての学習・教育到達目標の設定についての活発な話し合いがもたれていること、また、その達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検し、改善する活動が継続的に行われていることで実現されている。

今後さらに強化が必要な項目については、特に、改善の余地があると自己判定した項目は無いが、「基準2 教育手段」および「基準3 学習・教育到達目標の達成」に関わる、学習・教育到達目標の達成に向けた手段とその評価について、各科目とプログラムの学習・教

育到達目標との対応関係の明確化によりプログラムの学習・教育到達目標を効果的に達成できるカリキュラムの見直しを隨時進めていく。

以下、各基準に対する自己点検結果編の総括を示す。

基準1 学習・教育到達目標の設定と公開

プログラムが育成しようとする自立した技術者像が、電気工学科「ディプロマポリシー」、「教育方針(カリキュラムポリシー)」ならびに「アドミッションポリシー」にて定められている。この技術者像は、本学創設以来長年培われた伝統、教職員組織、校友会を基盤としたプログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、卒業生に対する求人倍率や就職率から裏づけられるように、社会の要求にも配慮されたものである。また、学生アンケートや卒業生からのフィードバックにより、学生の要望にも配慮している。学習・教育到達目標については、プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として、PDCAに基づきその水準も含めた設定がなされており、毎年見直しが行われている。さらに、この技術者像、学習・教育到達目標は、各種配布物や大学ホームページ等により広く学内外に公開され、当該プログラムに関わる教員及び学生にも周知されている。

基準2 教育手段

2.1 教育課程の設計

学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、「表4 学習・教育到達目標の流れ」で示される教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を明示した表とともに、毎年改訂される「学修の手引」、「電気工学科ガイドブック」により開示されている。2013年度から始まった文部科学省のグローバル人材育成推進事業については、その内容を関連す

るカリキュラムに反映させている。また、2014年度からの学習・教育到達目標変更に伴い、科目配置等の見直しを行っている。さらに、カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されている。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されている。そこでは、その科目のカリキュラム中での位置付けも記載されている。

2.2 学習・教育の実施

非常勤14名を含めた全教員により、シラバスに基づいた教育が行われている。学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みとして、原則的に半期25単位、年間49単位を超える無理な履修をさせず、また、各科目のシラバスには授業時間外課題を示している。学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させるため、各学年末の単位取得状況点検や、各学期初めのS☆gsotシステムからの学習・教育到達目標の達成度（JABEE達成表）に基づく単位取得状況チェックを行い、それをその後の学習に反映させている。特に、2014年度入学生からはJABEEコースに一本化されたため、入学時から自分自身の達成状況点検の習慣付けを強く指導している。

2.3 教育組織

博士の学位を有する15名の専任教員（技術士1名、一級電気工事施工管理技士1名、第一種電気主任技術者1名、産業界経験者5名を含む）は、いずれもカリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった者である。また、クラス担任制度、TA制度、SA制度、工学部学習サポート室などにより、教育支援体制が充実している。カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ改善するための教員間連絡ネットワーク組織として、多数の学科内外の委員会が設けられており、活発な活動が行われている。教育の質保証に向けた工学部教育改革の一環として、2019年4月より共通学群所

属教員の学科への分属が行われた。教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みとして、教育の質保証と教学 IR 体制の整備を推進する教育イノベーションセンターIR 部門の活動に学科の複数の教員が積極的に参加するとともに、そこで得られた情報や知見の学科内での共有を進めている。また、年度初めの全学 FD・SD 改革推進委員会による学内外講師を招いた FD 講演会や、教育・研究等業績評価（自己評価方式）を実施している。さらに、2013 年度から採択された文部科学省のグローバル人材育成推進事業と文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」の男女共同参画推進シンポジウムにも積極的に参加して、教員の質の向上および人的資産の多様性確保に向け継続的に活動している。なお近年研究力の低下に伴い教育力も低下することが懸念され、解決すべき大きな課題である。

2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法

プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法としては、大学全体、工学部、電気工学科でそれぞれ「アドミッションポリシー」を定め、これに基づいて一般入試（大学入試センター利用方式、前期日程、全学統一日程、後期日程）、特別入試（外国人留学生特別選抜、帰国生特別、国際バカロレア特別入学試験、駅伝プロジェクト入学者選抜、学士・編入学試験）および推薦入試（指定校推薦、併設校推薦、上海日本人学校、公募制推薦入試（女子））が実施されている。これらは要項として学内外に公開、該当高校に開示されている。選抜方法については、入学試験の形態、適切な試験科目の配分、指定高校の推薦枠などを入試委員会にて検討の上、教授会の承認を得て実施している。

プログラム履修生は共通教育後の 3 年次に総合電気工学コース(JABEE コース)と応用電気工学コース(非 JABEE コース)のいずれかを選択することで決定するが、総合電気工学コースを選択する際に必要な条件は、取得済み単位数などが具体的に定められており、2 年生

終了時にコース振り分けアンケートを実施して達成度を確認後、学科にてコース確定の承認・決定を行っている。なお、2014 年度入学生からコースを一本化したため、留年生を除き、2016 年度の 3 年次進級生からはコースの振り分けは不要になった。これらは、電気工学科ガイドブックにて教員及び学生に開示されている。学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合、その試験方法および学外で取得した単位認定方法についての定めがあり、試験要項は学外に公開されている。電気工学科編入生受入手順を作成するとともに、学外で取得した単位の認定方法については見直しを行い、編入学・学士入学者に不利とならないようにしている。学内の他のプログラムとの間の履修生の異動については、その試験方法を転部転科試験要項として定め、学内外に公開している。それに従った履修生の異動が行われているが、2019 年度には異動はなかった。

2.5 教育環境・学生支援

大学全体として、校地面積・校舎面積とも大学設置基準を満たしており、プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室等の施設、設備が整備されている。それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みについても、大学全体として、収入の中心である学生生徒等納付金が安定的に確保されており、財源が堅調に推移しながら確保されている。教育環境及び学習支援に関しては、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みとして、クラス担任による各学年学生のサポート、工学部学習サポート室の開室、基礎科目の学習サポート等を行っている。また、各学年クラス担任が、必要に応じて定期的に学生との面談を行っている。これらは、入学時に配布される冊子「SIT Campus Guide」「学修の手引」、各年度開始時の学科ガイドブックで配布される「電気工学科ガイドブック」等にて、当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されている。

基準3 学習・教育到達目標の達成

シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学習・教育到達目標が明記されており、シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとに到達目標に対する達成度が評価されている。「電気実験1」～「電気実験4」、「卒業研究1」、「卒業研究2」など筆記試験を行わない科目については、評価シートを設け、達成度を評価している。修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していることは、学生個々の達成度表をもとに作成した達成度点検シートをもとに、卒業年度末の電気工学科会議において、確認を行っている。設定した学習・教育到達目標は、基準1(2)の(a)～(i)に対応しているが、プログラム設計との対応を容易にするために、大項目だけでなく必要に応じて小項目を設定し、各科目の履修により基準を満たすように工夫している。よって、修了要件に必要な科目を履修し単位を取得することにより、修了生が基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけたと判定している。

なお学外単位認定手順について、工学部としての受け入れ基準整備は完了していることを確認した。

基準4 教育改善

4.1 教育点検

学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みとして、電気工学科内に教育プログラム実施委員会、カリキュラム委員会、シラバス委員会、教育環境整備委員会、広報委員会、学生受入委員会、グローバル推進委員会およびJABEE担当を設け、それらの教育活動内容は学科会議で報告され点検されている。これらの教育活動は学科会議の議事録にまとめられ各教員に開示されている。また、工学部教育プログラム自己点検委員会では、学科の教育活動を点検している。社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みとしては、クラス担任による学生の要望の

反映、父母懇談会やホームカミングデーなどを通した情報交換の場の設定、授業アンケートや学生による教育評価アンケートによる、学生からの要望の吸い上げ、求人企業に対するアンケートによる企業からの要望事項の吸い上げとそれへの配慮を行っている。仕組み自体の機能の点検については、工学部教育点検システムとして、学校法人芝浦工業大学評価委員会、工学部教育プログラム自己点検委員会が存在し、自己点検・評価、外部評価、第三者評価が実施されている。その仕組みを構成する会議や委員会等の記録は、委員会の議事録として当該プログラムに関わる教員が閲覧できるようになっている。

4.2 継続的改善

教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みとして、電気工学科 学科会議ならびに各種委員会および JABEE 担当を核として継続的な改善活動が実施されており、定期的な会合が開催されている。その活動記録は、議事録として残されている。

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2018年度

高等教育機関名 芝浦工業大学 工学部 電気工学科

プログラム名 総合電気コース

(希望認定種別名) エンジニアリング系学士課程用
(希望認定分野名) 電気・電子及び関連の工学分野

Program Title Electrical Engineering

提出日 2021年 1月 31日

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	○	電気工学科「ディプロマポリシー」に記載されている。		【T01-1】電気工学科ガイドブック
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	○	本学創設以来長年培われた伝統、教職員組織、校友会を基盤として、毎年100名前後の卒業生を輩出している。活躍分野は電気機器分野を中心に全産業、公務員など多岐に渡っている。		【T02】就職先一覧 【T03】求人アンケート 【T01-2】電気工学科ガイドブック
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	○	卒業生に対する求人倍率は、例年5倍前後であり就職率も95%前後の高い数値を誇っている。また、求人アンケートによる社会の要求のフィードバックとともに、学生アンケートや校友会、ホームカミングデーなど卒業生からのフィードバックもなされている。		【T02】就職先一覧 【T03】求人アンケート 【K34】教育評価アンケート 【T04】ホームカミングデー案内
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	○	根拠資料に示す各種配布物や大学Webページで公開されている。		【T01-1】電気工学科ガイドブック 【J01】教員ハンドブック
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	根拠資料に示す各種配布物や大学Webページで公開されている。電気工学科ガイドブックにて周知している。また学生向けには電気工学科ガイドブック、学年別ガイダンス資料にて説明している。		【T01-1】電気工学科ガイドブック 【T05】学年別ガイダンス資料
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮され				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定され、毎年見直しが実施されている。	○	入学年度ごとに学修・教育到達目標が設定され、毎年見直しが実施されている。		【T01-3】電気工学科ガイドブック http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/preliminary/ko1/2018.pdf
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2) [2] (a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	○	多様な視点から種々の文化および社会の発展の歴史を学び、多面的にものごとを捉える能力。 A1 種々の文化および社会の発展の歴史を学ぶことにより、その内容を説明できる。 A2 エネルギーならびにその関連技術が、社会および地球環境に及ぼす影響と効果を理解し説明できる。 A3 心と身体の健康を管理できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	○	技術における倫理的責任の認識と実践のため、技術者の行動規範となる倫理要綱を理解し説明できる能力。また工学の実践の場において、技術者として倫理観に基づき価値判断する能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	○	数学、自然科学、情報利用技術を問題解決のための言語・道具として使いこなす能力。 C1 自然科学全般の基礎的な考え方を理解し、技術の基盤となる自然科学の原理を説明できる。 C2 数理法則と物理原理など工学の基礎理論を理解し、適切に利用できる。 C3 情報処理環境を活用し、問題を解決できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	○	電気工学ならびに関連する工学の技術分野を課題に適用し、社会の要求を解決するための応用力。 D1 電気工学の専門分野における基礎科目を学び、電気現象ならびに電気エネルギーの特徴を説明できる。 D2 与えられた課題に対し効率的に実験を計画および遂行し、正しくデータを取得・解析する力を身に付け、得られたデータを理解しやすい形式で表現できる。 D3 ハードウェアとソフトウェアを包含する複雑な電気・電子デバイス、システムの解析と設計に必要な知識を駆使することにより、与えられた課題を解決できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	○	社会のニーズを捉え、技術的課題を自ら設定し、デザイン能力を活かして設計、解析、製作、評価し、課題を解決する能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	○	グローバルな社会に通用するコミュニケーション能力。 F1 技術資料や報告書を論理的に記述し、根拠を示しながら効果的に発表や討議ができる。 F2 国際コミュニケーションの基礎となる英語などで書かれた技術文書を理解し作成できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (g)	自主的、継続的に学習する能力	○	継続的に学習することにより、課題を自主的に選択し自らの探求心を高めることができる能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	時間・費用を含む与えられた制約の下で課題の内容を正しく理解し、計画の立案ならびに計画に基づいて仕事をするとともに、結果を正しくまとめることができる能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック
1(2) [2] (i)	チームで仕事をするための能力	○	他分野の人を含むチームの中での役割を正しく認識し、お互いの意思疎通を図りながら円滑に仕事をすることができる能力。また、振返り場面での気づきや自己認識ができる能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T01-4】電気工学科ガイドブック

番号	点検項目	自己 判定 結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	○	電気工学科におけるカリキュラム設計、教育研究実績、修了判定、社会の要望、卒業生の活躍分野などPDCAに基づき適切な水準になっている。電気主任技術者、電気工事士の資格取得が可能なカリキュラム設計になっている。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用	【T01-5】電気工学科ガイドブック2017年度版 PP. 75-79
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	○	入試要項、各種配布物、ホームページなどで公開している。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用	【J02】電気工学科ガイドブック
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	教員向けには教員ハンドブック、電気工学科ガイドブックにて周知している。 また学生向けには電気工学科ガイドブック、学年別ガイダンス資料にて周知している。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用	【T01-1】電気工学科ガイドブック 【T05】学年別ガイダンス資料
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計されていますか？	○	卒業に必要な124単位について、「学修・教育到達目標を達成するためには必要な授業科目の流れ」に沿って、適切な開講時期の検討を行い、学生が4年間の標準年限において教育課程を修了するようにカリキュラムを設計している。なお、2019年度はカリキュラム改変を行い、必修科目の変更と、複数教員による少人数教育実施の増加などを行った。	特になし。	【T01-6】電気工学科ガイドブック2018年度版 pp. 46-47 表4 【J04】工学部授業時間割表 http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	カリキュラムは「学修の手引」として新入生に配布している。また大学webページでも公開している。同様の内容は「電気工学科ガイドブック」にも記載して当該プログラムに係わる教員及び学生に開示している。 ※学修の手引、電気工学科ガイドブックとともに、大学Webページでも公開している。	特になし。	学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【J02】 電気工学科ガイドブック 【J04】工学部時間割表 【J05】学修の手引 Webhttp://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	○	上記、「学修の手引」と「電気工学科ガイドブックP46」において、各科目とプログラムの学修・教育到達目標との対応関係を明示している。	特になし。	学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【J02】電気工学科ガイドブック (PP. 46-47) 【J05】学修の手引

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(1) [4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	○	本プログラムは4年間を標準修了年限としており、個別基準の4年間を満たしている。また、自然科学および科学技術に関する内容が全体の60%以上必要であるが、本プログラムでは77%（必要単位数124単位中の97単位が該当）以上の単位が自然科学・科学技術のものとなっている。授業時間では、80%以上の授業時間数が自然科学・科学技術に割り当てられている。また、分野別要件にて求められる、専門知識および実験に関する要件2つを満たすように「電気工学科ガイドブック表1, 2, 3」を作成している。	特になし。	【T01-7】電気工学科ガイドブック表 1, 2, 3 【T07】[電気工学科会議資料]1702-02 (3)-7 【T09】(参考) 1607-02 (3)-2 電気工学科授業時間の確認(案)_20161108藤田_安藤追記.docx 【T08】[電気工学科会議資料]1702-02 (3)-8 数学・自然科学・科学技術の単位数・時間数の確認表 (安藤) b2.xlsx
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2) [1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？	○	「学修・教育到達目標」に基づきカリキュラム設計を行い、「学修・教育到達目標の流れ」にて対応する授業科目を設定している。また、授業時間割表および対応する科目的シラバスが作成されている。	特になし。	【添付資料編】表1 【添付資料編】表4 web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【J04】工学部授業時間割表 http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2) [2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	授業時間割表に基いて作成されたシラバスは、大学webページとして学内外に公開されている。	特になし。	web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2) [3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	○	web版シラバスの標準書式として、それぞれの科目的カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準がある。また、学修・教育到達目標の項目に対する対応がなされている。シラバス公開の前には、科目担当以外の教員によるチェックを実施している。	特になし。	web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 学科会議資料 1801-02(4)
2.1(2) [4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	○	2017年度より、授業時間は100分14回と定められており、「学修の手引」に記載されている。またこれに基づき時間割の編成を行い、「授業時間割表」に掲載している。	特になし。	web時間割： http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/kol.html?f=kol&b=1 【J05】 学修の手引 【J04】授業時間割表
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1) [1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	○	学生による授業アンケートが毎年全科目について実施されており、シラバスに基づいて教育が行われているかどうかがチェックされている。休講等により授業実施回数が不足する場合には、学生課から担当教員に対して補講実施の要請がなされる。	特になし。	【T10】シラバス委員会実施マニュアル 【T11】授業アンケート
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	○	半期24単位の履修を原則として無理な履修をさせず、自己学習時間を確保するように努めている。各科目のシラバスには授業時間外課題が示されている。大学組織として、教育イノベーション推進センター、学術情報センターが設置され学修支援を実施し、図書館は試験期間中及び日曜日も開放されている。	左記のように修正	教育イノベーション推進センター： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/index.html 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 図書館： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	○	1. 4年間で学修・教育到達目標を達成できるよう設計されたカリキュラムに沿って、取得単位状況を確認し学年別の達成度を把握させている。 2. クラス担任制度を導入し、個別対応を実施している。 3. 成績不振者に対してはクラス担任が個別面談を行い、学修・履修指導を行っている。 4. S*gsotのシステムで学生自身が成績の確認ができるようにしている。 5. 2017年度よりGPAを卒業要件とし、学修の質を意識させるようにしている。	左記のように修正	【K02】工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 【K03】学修指導マニュアル 【K04】S*gsot画面JABEE達成表 【J05】学修の手引 【T13】基底科目成績不振者面談報告書 【T14】警告対象者面談報告書 【T15】JABEEへの取り組み 【T16】JABEE達成表
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	○	カリキュラム設計において、3年次への進級停止条件、4年次の卒業研究着手条件、および卒業要件により、2年後期、3年後期、および4年後期に単位取得状況を点検し、学習に反映させるようにしている。	左記のように修正	【J05】学修の手引 【T14】警告対象者面談報告書
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	○	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員は、教授13名、准教授1名、助教1名から構成され、全員が博士の学位を有している。 技術士1名、一級電気工事施工管理技士1名、第一種電気主任技術者1名も含み、産業界経験者は5名であり、本コースの学修教育目標を実現できる十分資質ある教員から構成されている。 2014年度には本学が推進している男女共同参画事業の指針に基づき女性教員1名が採用され、現在男性教員13名、女性教員2名である。 教員には5年ごとの再審査制度が導入されている。 教育支援体制として、クラス担任制度、TA制度、SA制度、国際推進課、工学部学習サポート室などがある。 教員への教育支援体制として、研究推進室研究企画課、同研究推進課が設置され、有効に活用されている。 	教員組織の変更	<p>【K05】再審制度の根拠資料 【K02】工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 【K06】TA規程 【K07】SA規程 工学部学習サポート室Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 【K08】大学組織図 【T17】教員一覧 【J02】電気工学科ガイドブック 【J06】芝浦工業大学教員プロフィール ※学科オリジナルサイトは閉鎖 芝浦工業大学教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/</p>
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	○	<p>学科外ネットワーク組織として工学部教授会、工学部学群・学科主任、工学部教育プログラム自己点検委員会、工学部教育開発本部、教務委員会、などがある。</p> <p>2014年度入学生よりコース統合で学科全体がJABEE対応となったため、2015年度に、学科会議、JABEE委員会等の各種委員会の構成、位置づけ等の見直しを行い、新体制の下で、学科会議、各種委員会をスムーズに運営している。教育の質保証に向けた工学部教育改革の一環として、2019年4月より共通学群所属教員の学科への分属が行われた。</p>	特になし	<p>【K09】工学部教授会議事録 【K10】工学部学群・学科主任、科目代表者会議事録 【K11】工学部教育プログラム自己点検委員会議事録 工学部教育開発本部Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/faculty_development/educational_development_on_engineering/aim.html 【K12】工学部教育開発本部議事録 【K13】教務委員会議事録 【T18】大学院理工学研究科委員会 【T19】大学院電気電子情報系専攻会議事録 【T20】ハイブリットツイニングプログラム教育開発本部 HP:http://www.shibaura-it.ac.jp/education/faculty_development/educational_development_on_engineering/aim.html 【T21】電気電子学群会議議事録 【T22】電気工学科会議議事録 【T26】電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T27】電気工学科教育環境整備委員会内規 【T28】電気工学科カリキュラム委員会内規 【T29】電気工学科ラバース委員会内規 【T30】電気工学科カリキュラム委員会議事録 【T31】電気工学科教育環境整備委員会議事録 【T32】電気工学科グローバル推進委員会議事録 【T33】共通系教員とのネットワーク議事録等 【T17】教員一覧 【T34】第1701回教育プログラム自己点検委員会資料および同議事録</p>

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(2) [2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？		工学部教授会、工学部学群・学科主任・科目代表者会議は、年間11回の部門会議を開催しており、工学部教育プログラム自己点検委員会(名称変更)、工学部教育開発本部、教務委員会も開催されている。電気電子情報工学専攻科会議は年4回程度、電気電子学群会議は年間2回開催されている。学科内組織では、学科会議カリキュラム委員会や各委員会は年5回程度以上、電気回路などの主要科目担当者による意見交換会や共通学群との意見交換会は不定期に必要に応じて開催されている。いずれも議事録が作成開示されている。	変更なし。	【K09】工学部教授会議事録 【K10】工学部学群・学科主任、科目代表者会議議事録 【K11】工学部教育プログラム自己点検委員会議事録 【K12】工学部教育開発本部議事録 【K13】教務委員会議事録
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3) [1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	大学全体として、教育イノベーション推進センターが常設されており、「教育の質保障と教学IR体制の整備を推進する教育イノベーションセンターIR部門」が継続的に活動している。 年度初めにはFD・SD講演会が開催されている。また、研究推進室による競争的資金、共同研究、知財、コンプライアンス等に関する説明会が開催されている。各種学会活動について適宜参加呼びかけがなされており、学科内では、上記委員会の活動を受けて活動する教育環境整備委員会が存在する。	変更なし	教育イノベーション推進センターWebページ http://www.shibaura-it.ac.jp/education/index.html 【K14】2018年度 FD・SD講演会および2017年度優秀教育教員の顕彰について 【K15】研究推進室による競争的資金、共同研究、知財、コンプライアンス等に関する説明会についての根拠資料 教員の総合的なグローバル教育力の向上の取り組みについての根拠資料 [T38] 教育環境整備委員会 【T39】FD講演会開催通知 【T37】2018年度年間活動スケジュール 教育イノベーション推進センターNEWSLETTER http://www.shibaura-it.ac.jp/education/action/news_letter.html 芝浦工業大学グローバル人材育成推進事業 http://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/ghrd.html (要確認) 男女共同参画推進室HP http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	<p>工学部教育開発本部の規程は全て教授会の審議を経た上で承認・制定され学校法人芝浦工業大学規定集に収められてる、各部門構成は大学Webページで公開されている。「教育イノベーションセンターIR部門」、「芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業」や「女性研究者研究活動支援事業」の活動は、「チャレンジSIT-90」作戦(2015年度より「Centennial SIT Action」に移行)の報告書や男女共同参画推進室の大学Webページなどで公開されている。</p> <p>学科の教育環境整備委員会は内規に詳細な運営が定められ、適宜、見直しがされて学科会議等で配布され、学科サーバーによっても全教員に開示されている。</p>	開示方法については変更なし。	<p>【K17】工学部教育開発本部規程 工学部教育開発本部Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/education/faculty_development/educational_development_on_engineering/aim.html 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 http://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/ghrd.html Centennial SIT Action http://www.shibaura-it.ac.jp/about/centennial_sit_action/index.html 男女共同参画推進室 http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/about/greeting</p>
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	<p>年度初めに全学FD・SD改革推進委員会が学内外講師を招いたFD講演会を開催し、優秀な教育成果を納めた教員の表彰も行われている。また、2008年4月よりスタートした「チャレンジSIT-90」作戦により、7つの挑戦に沿って各教学機関が改革項目を立て、PDCAサイクルを展開していく自律的大学改革運動を実施している。2015年度からは「創立100周年に向けた大学戦略プラン (Centennial SIT Action)行動計画書」として発展した。特に、「男女共同参画推進室」は、男女共同参画推進シンポジウムを開催するなど、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活発に活動を行っている。</p> <p>文部科学省のグローバル人材育成推進事業に関しては、2016年度より、毎年学科の2年生全員に海外経験をさせることを目標に、各教員が、多くのgPBLプログラムの実施、新たなgPBLプログラム構築を進めている。</p>	変更なし	<p>【K14】2018年度 FD・SD講演会および2017年度優秀教育教員の顕彰について Centennial SIT Action http://www.shibaura-it.ac.jp/about/centennial_sit_action/index.html 男女共同参画推進室 http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/about/greeting 【T36】FD講演会開催記録 【T40】チャレンジSIT-90作戦パンフレット</p>
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	○	<p>教育・研究等業績評価（自己評価方式）を実施している。その目的は、教員各自が、自身の諸活動について目標と達成度を明確にし、不断の改善へとつなげる事である。評価項目の筆頭には教育活動が掲げられ、学士課程教育への貢献、学生支援活動等が評価される。評価方法は、年度当初に、個人の達成目標と活動計画を『目標計画書』に記述し、貢献比率を自身の計画に基づき設定し、学部長を経由して学長に提出される。また、学部・大学院教員とともに、教員資格の再審査制度を制定し、教員が着任もしくは昇格してから5年ごとに教育・研究等業績の再評価を所定の書式に基づいて実施し、その結果を本人にフィードバックすることで教員の改善意欲を継続的に高めている。教員が学内又は社会における教育活動及び学内運営に関する活動によって優れた業績を挙げた場合、これを顕彰する制度として梅村魁記念賞（1990年～2016年）がある。2017年度より、この梅村魁記念賞の意志を引き継ぎ制定された「学長賞（教育）」において、新たな顕彰規程の元、教員の優れた教育活動業績に対して顕彰を行っている。</p>	変更なし	<p>【K18】芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 【K19】工学部教員資格審査委員会審査方法内規 【K20】梅村魁記念賞規程 【K21】学長賞規程</p>

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	教育・研究等業績評価実施状況、教員業績情報システムを介して入力された各種情報は、データ更新の翌日には更新され大学Webページ（教員データベース）で公表される。学長賞（教育）の候補者は、各学科主任から学長に推薦され、毎年創立記念式典にて表彰されている。	変更なし	教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 【K22】2018年度学長賞（教育）推薦依頼(要確認)
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	○	年度末に、達成目標に対する達成度および改善点を『自己評価書』に記述し、学部長を経て学長に提出する。学部長は、各教員の活動計画と自己評価結果を総覧し、特に改善を要する教員に対して、助言を行うとともに必要に応じて個人面談を実施している。本プログラムの教員は全員、3月末に実施される自己評価に参加しており、次年度の教育改善に役立てている。5年毎の再審査結果は本人にフィードバックされている。電気工学科では、学長賞（教育）（旧・梅村魁記念賞）に候補者を積極的に推薦しており、学科教員の関係する受賞実績がこれまで8件ある。	変更なし	【K23】自己評価書作成依頼書 【K24】自己評価書サンプル 【K25】梅村魁記念賞 受賞者一覧
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	○	大学全体、工学部、学科でそれぞれアドミッションポリシーを定めている。これに基づいて一般入試（大学入試センター利用方式、前期日程、全学統一日程、後期日程）、特別入試（外国人特別試験、帰国生特別、国際バカロレア特別入学試験、公募制推薦入学試験（女子）、学士・編入学試験）および推薦入試（指定校推薦、併設校推薦）が実施されている。	国際バカロレア特別入学試験、公募制推薦入学試験（女子）、駅伝プロジェクト入学者選抜が追加	大学Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html 工学部Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/index.html 一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 電気工学科アドミッションポリシー http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/electrical_engineering/policy.html
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	入試制度については工学部教授会で審議されている。一般入試および特別入試、学士・編入学試験については要項として学内外に公開されている。推薦入試については該当高校に開示している。	特になし。	一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 【K26】推薦入試について該当高校に開示根拠資料
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	○	選抜方法については、入学試験の形態、適切な試験科目の配分、指定高校の推薦枠などを入試委員会にて検討の上、教授会にて承認を得て入学試験を実施している。	特になし。	【K27】第1802回 拡大学部長・研究科長会議
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに開わる教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	2014年度入学生からは非JABEEコースを廃止し、すべてJABEEコースとした。 2019年度入学生からJABEEコースを廃止した。	2019年度入学生からJABEEコースを廃止した。	【T41】電気工学科内規 【J02】電気工学科ガイドブック

番号	点検項目	自己 判定 結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	2014年度入学生からは非JABEEコースを廃止し、すべてJABEEコースとした。 2019年度入学生からJABEEコースを廃止した。	2019年度入学生からJABEEコースを廃止した。	【J02】電気工学科ガイドブック
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の決定が行われていますか？	○	2014年度入学生からは非JABEEコースを廃止し、すべてJABEEコースとした。 2019年度入学生からJABEEコースを廃止した。	2019年度入学生からJABEEコースを廃止した。	【T24】電気工学科JABEE会議議事録（J1401） 【T32-1】第1701回電気工学科会議議事録
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	大学全体として編入学・学士入学の試験方法を定めている。学外で取得した単位認定方法についても工学部教務委員会および電気工学科にて定めている。 学科内では、2014年度に「電気工学科編入生の受入手順」を作成し、毎年「学科外科目の取り扱い表」の見直しを実施している。	「学科外科目の取り扱い表」の見直し実施	編入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/transfer_exam.html 学士入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/bachelor_exam.html 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 【T42】電気工学科編入生の受入手順
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	試験内容を具体的に定めた編入学・学士入学の試験要項を学外に公開している。マレーシアツインニングプログラムが存在し、単位認定基準に沿って学科で仮認定し教務委員会で承認を得て教授会に報告されている。		編入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/transfer_exam.html 学士入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/bachelor_exam.html
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	○	MJHEP留学生を3年生に受け入れるための単位互換について教務委員会にて審議してきた。2020年度卒業生が最後となる	特になし。	【T43】電気工学科 学科会議 議事録
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	転部転科試験要項として定められている。若干名をシステム理工学部・デザイン工学部(転部)および工学部内の他学科(転科)から募集している。	特になし。	【K29】転部転科に關わる根拠資料（要項）
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	○	転部転科試験要項として学内にて公開している。	特になし。	【K29】転部転科に關わる根拠資料（要項）

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(4) [3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？	○	転部転科試験要項に基づき履修生の異動を実施している。2019年度は実績なし。	特になし。	
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するためには必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？				
2.5(1) [1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するためには必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	○	大学全体としては、校地面積・校舎面積とも大学設置基準を満たしており、プログラム実施に支障のない教室・実験室が確保・整備されている。PC室については、ほぼ5年に1回の割合でコンピュータの大幅な更新を行っている。図書館では、自習室を完備し、学生による選書ツアーも行っているほか、留学生を対象としたイベントも実施している。学生の休憩場所は、校舎内に適宜準備されている。国際交流活動の場であるグローバルラーニングコモンズ（豊洲・大宮キャンパス）、国際学生寮、至近に東大宮学生寮（大宮キャンパス）が設置されている。研究室・実験室については、ほぼ年1回の割合で整備状況をチェックしている。	特になし。	大学基礎データ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h1h.pdf 大学データ集 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h11.pdf 国際学生寮、東大宮学生寮 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/dormitories.html グローバルラーニングコモンズ https://www.shibaura-it.ac.jp/global/in_campus/program/glc.html キャンパスダイアリー 2020 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/ 【T37】【T38】1904-02 (5) 2019設備点検結果
2.5(1) [2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	○	大学全体としては、収入の中心である学生生徒等納付金が安定的に確保されているとともに、支出の中心を占める人件費が適正な水準で推移しており、財源が堅調に推移しながら確保されている。大学から学科への予算については、学科在籍学生数が反映された教育経費、教員数が反映された研究用経費、そして各学科一律の設備経費に分かれて安定的に配分されており、学科の施設、設備を維持・運用・更新するための予算が確保されている。	特になし。	大学基礎データ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/dormitories.html 大学データ集 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h11.pdf 【T39】 電気工学科教育・研究費配分 【T40】研究教育設備の導入状況 【T41】電気工学科外部資金取得状況 【T42】機械器具備品登録一覧表 【T43】学報（2016年5月）

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	○	クラス担任により各学年の学生のサポートを行っている。あわせて、工学部学習サポート室を開室し、基礎科目の学習サポートを行っている。ほか、TA制度が設けられている。図書館では、各種サービスを行う窓口があり、自習室が設けてある。さらに、試験期間中およびその前の一定期間に休日開館を実施し学生に学習スペースを提供している。学術情報センター（PC室）では、相談窓口が設置しており、学生の相談にのる仕組みがある。また学生課や食堂、工学部学生課にある意見箱や学生センター、工学部学生会の他にJABEE事務担当が配属されている。	特になし。	【K03】学修指導マニュアル 工学部学習サポート室Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 図書館Webページ： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ キャンパスダイアリー 2020 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/ 【J08】SIT Campus Guide 【J05】学修の手引 【J02】電気工学科ガイドブック
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	○	入学時に、「キャンパスダイアリー」「学修の手引」を全員に開示して、図書館利用方法、PC室利用方法、クラス担任制度、科目履修方法、学習サポート室などの周知を行っている。各年度開始時の学科ガイドインスでは、「電気工学科ガイドブック」を配付しており、その中で必要な情報を開示している。	特になし。	キャンパスダイアリー 2020 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【J08】 【J05】学修の手引 【J02】電気工学科ガイドブック
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	各学年のクラス担任が、必要に応じて定期的に学生との面談を行っている。工学部学習サポート室では、平日の午後に数学、物理学、化学、英語の学習サポートを実施している。またTA制度や図書館、およびPC室のサポートも行っている。そのほか、奨学金支援などのサポートも実施している。	特になし。	工学部学習サポート室Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 【K06】芝浦工業大学ティーチング・アシスタンス規程 図書館Webページ： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 奨学金：CAMPUS GUIDE 【T44】クラス担任面談記録 【T45】学費に関する支援体制について
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(1) [1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？		シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学習・教育到達目標が明記されており、それに従って評価されている。全てのシラバスは大学Webページの「芝浦工業大学シラバス検索システム」から参照することができる。「電気実験1～4」や「卒業研究1・2」など筆記試験を行わない科目については、評価シートを設け、達成度を評価している。	シラバスの内容に関する教員間でクロスチェックを継続的に実施している。学生が語学研修や柔軟な学修機会を作るため導入されたクオータ制に対応するため、シラバスの内容を全面的に見直し、整備・改善した。	芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【T53】主要科目試験答案の一部 【T54】電気実験1～4評価シート 【T55】卒業研究1・2評価シート 【T56】学科会議資料1912-02 (4)-2 【工学部専門科目】シラバスチェックリスト 電気チェック者氏名記入.xlsx
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それに従って単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それに従って単位認定が行われていること。				
3(2) [1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？		「芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程」により、本学工学部の学生が本学以外の教育機関（大学などの教育機関及び文部科学省が認定した教育施設等）で学外単位等を修得した場合、教育上必要と認めるときは本学の単位として認定を受けることができる制度を定めている。この制度では、在学中に取得した学外単位と入学前に取得した学外単位はそれぞれ60単位を上限として本学の単位として認定を受けることができる。また、電気工学科では学修の手引きの「学外単位等認定制度について」において制度や手続きの方法などについて説明があり、学生に周知している。また、「学科外科目の取り扱い表」により認定方法が定められている。	編入受入等の方法および単位互換の現状を整理し、学科外科目認定の取り扱いについて見直しを行った。	【K28】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【K30】編入学試験要項 【K31】マレーシア留学生編入学試験要項 【T56】学科外科目の取り扱い表 【T57】編入受入等の方法及び単位互換の現状 【T58】工学部教授会資料_編入者の単位認定 【T59】【共通】編入単位認定宛依頼 【T60】【専門】編入主任宛依頼 【T61】【専門】マレーシアプログラム編入単位認定宛依頼 【T62】単位認定作業のガイドライン教務委員会資料1 【T63】学修の手引きP.24
3(2) [2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？		単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定の承認を行う。		【K32】認定案の作成依頼資料 【K33】教授会資料
3(2) [3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？		3 (2) [1]と同様に、編入生についても「芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程」および「学科外科目の取り扱い表」によって定められている。	3 (2) [1]と同じ	芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1
3(2) [4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？		単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定の承認を行う。		【K32】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【K32】認定案の作成依頼資料 【K33】教授会資料

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それに従って評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？		本プログラム履修生一人一人に対して学修・教育到達目標に対する「達成度表」を作成して、目標が総合的に達成できているかを確認し評価できる。学生はS*gsotによって、随時、達成度を自己確認できる。また、プログラムの修了判定条件は「電気工学科内規」および「電気工学科ガイドブック」に明記され、年度別の修了要件が電気工学科ガイドブックに記載されている。	2014年度～2018年度の入学生は全員がJABEE認定コースである総合電気工学コースの学生であるため、過年度生及び2020年の入学生を除き、電気工学科所属の学生全員に対して「JABEE達成度表」を作成している。	【T16】JABEE達成表 【T41】電気工学科内規 【J 2】電気工学科ガイドブック（2019年度版） 芝浦学生応援ツールS*gsot（要ユーザ名） http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【J】2019年度学修の手引
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？		各学修・教育到達目標の達成度評価は、卒業年度末の電気工学科会議において、学生個々の「達成度表」をもとに実施されている。		【T66】第1911回電気工学科 学科会議 議事録 【T16】JABEE達成表
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？		2014年度以降の入学生については、卒業要件と学修・教育到達目標が一致するように設定されており、修了生全員が学修・教育到達目標を達成することを担保している。過年度生については、今まで通り、「達成度表」で確認している。		3(3)[2]に同じ
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？		設定した学修・教育到達目標は、表1に示したように基準1(2)の(a)～(i)に対応している。また、学修・教育到達目標は、プログラム設計との対応を容易にするために、大項目だけでなく必要に応じて小項目を設定し、各科目の履修により基準を満たすように工夫している。よって、修了要件に必要な科目を履修し単位を取得することによって基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけたと判定している。	特になし。	【添付資料編】表1 【添付資料編】表2 【添付資料編】表3 【添付資料編】表4
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？		電気工学科内組織として学科会議、教育プログラム委員会、カリキュラム委員会、シラバス委員会、教育環境整備委員会、広報委員会、学生受入委員会、グローバル推進委員会があり、教育活動を点検している。また、工学部JABEE推進委員会があり、その中で学科の教育活動を点検している。工学部では学科別自己点検書を毎年作成して点検を行っている。	基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検し、教育活動をより迅速かつ柔軟に行うことができるよう教育プログラム実施委員会、カリキュラム委員会、シラバス委員会、教育環境整備委員会、広報委員会を学科会議直轄の下部組織として再編成し、学生受入を担う学生受入委員会や科内SGU・AP推進を行うグローバル推進委員会の活動を活動を進めている。	【K11】工学部JABEE推進委員会議事録 【K34】2019年度工学部学科等個別自己点検書作成の依頼 【T67】電気工学科JABEE委員会内規 【T26】電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T36】電気工学科カリキュラム委員会内規 【T29】電気工学科シラバス委員会内規 【T68】電気工学科教育環境整備委員会内規 【T69】電気工学科広報委員会内規 【T70】電気工学科学生受入委員会内規 【T71】電気工学科グローバル推進委員会内規
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？		学科会議がそれぞれの委員会を統括し、教員に開示している。同委員会の活動内容は、学科会議において報告され、当該プログラムに関わる教員に開示されている。これにより、必要に応じて工学部の教育プログラムに関係する部署（工学部JABEE推進委員会等）との連携が可能な体制を維持している。		【T22】電気工学科学科会議議事録
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？		各委員会にて内規の見直しおよび年間活動計画を作成が行われ、学科会議にて報告されている。それに従って、少なくとも半期複数回の活動を展開している。活動内容は議事録にまとめられている。 また、それぞれの活動内容は電気電子学群会議に半期に一度、報告がなされている。		【T38】電気工学科カリキュラム委員会議事録 【T73】電気工学科教育プログラム実施委員会議事録 【T31】電気工学科教育環境整備委員会議事録 【T74】電気工学科広報委員会議事録 【T75】電気工学科学生受入委員会議事録 【T32】電気工学科グローバル推進委員会議事録 【T27】工学部JABEE推進委員会議事録 【T21】電気電子学群会議議事録
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？		教育プログラム実施委員会にて、クラス担任による学生の要望の反映、父母懇談会やホームカミングデーなどを通した情報交換の場が設定されている。授業アンケートや学生による教育評価アンケートにより、学生からの要望を吸い上げる仕組みがある。また、外部評価委員会（大学基準協会大学評価）による点検も行われている。		【K35】授業アンケート 【K36】学生による教育評価アンケート 【K37】合同企業説明会アンケート 【K38】大学点検・評価分科会資料 【T76】クラス担任面談実施報告書 【T77】父母懇談会プログラム 【T05】ホームカミングデー案内

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？		工学部教育点検システムとして、学校法人芝浦工業大学評価委員会、工学部教育プログラム自己点検委員会が存在し、自己点検・評価、外部評価、第三者評価が実施されている。		【K39】大学点検・評価分科会資料 【K34】2019年度工学部学科等個別自己点検書作成の依頼 【K11】工学部教育プログラム自己点検委員会議事録 【T79】2018年度学科等個別自己点検書 【T32】学科会議議事録
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？		学科会議および各委員会の議事録や資料は、ネットワーク上の学科シェアフォルダに電子ファイルとして保管し、何時でも閲覧できるようしている。		【T80】シェアフォルダによる議事録閲覧
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	○	電気工学科各委員会を核として継続的な改善活動を実施している。毎年度、工学部に自己点検書を提出し、工学部からの各学科・科目へのフィードバックを通じて、改善活動を継続的に改善する仕組みがある。電気工学科JABEE委員会の中の業務については、学科会議の業務と重複する部分があり、整理統合をし、徐々に、学科JABEE会議の内容を学科会議に吸収させ、効率化を図っていった。	2018年度までに、徐々に電気工学科JABEE委員会の業務を学科会議の中の業務に吸収するようにし、JABEE担当教員を配置するとともに、学科内での業務の効率化を図った。	【T34】電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T28】電気工学科カリキュラム委員会内規 【T29】電気工学科シラバス委員会内規 【T68】電気工学科教育環境整備委員会内規 【T69】電気工学科広報委員会内規 【T70】電気工学科学生受入委員会内規 【T71】電気工学科グローバル推進委員会内規
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	○	定期的な会合が開催され、議事録として活動記録が残されている。	電気工学科JABEE会議については、2016年度をもって終了したが、その各業務については、学科会議の中で展開されて継続実施されている。	【T30】電気工学科カリキュラム委員会議事録 【T72】電気工学科シラバス委員会議事録 【T73】電気工学科教育プログラム実施委員会議事録 【T74】電気工学科広報委員会議事録 【T75】電気工学科学生受入委員会議事録

2021年1月31日
電気工学科

2020年度前期終了時までにおける電気工学科におけるコロナ対応について

以下に、2020年度前期終了時までにおける電気工学科におけるコロナ対応について示す。

- ・2020年3月13日（金）、2020年3月24日（金）などの複数回にわたって、学科におけるコロナ対応に関する検討会を行った。授業やガイダンスなどのリスケジュールや実施方法などについて議論を行った。
- ・2020年4月10日（金）の学科会議において、実験等のオンライン化に関する検討を行った。電気基礎実験や電気実験3については、まず学生に、実験内容がわかる動画を視聴し、実験データを渡した上で、実験の考察をする流れとなった。実験試問については、zoomを用いたオンラインでの対応となった。
- ・2020年4月24日（金）午後に、1年生全員を集めてオンラインミーティングを開催した。1年生100名のうち、95名の参加があり、全員に対して、履修登録に関する説明等、必要な情報を伝えたので、教員から1年生に伝えるべき情報は、参加した95名にはきちんと伝わっているものと考えられる。欠席者には、クラス担任から個別に連絡を入れ、オンラインミーティングで説明した内容を実施するように伝えた。

2020年5月11日(月)の授業開始日以後は、学生からクラス担任へのメールによる相談に個々に対応している。さらに、電気回路1Aの授業時に1年生から授業以外の内容についても質問を受け付けるなどを行い、1年生へのサポートを実施している。

- ・2020年4月27日（月）から2020年5月1日の期間に、学業以外の悩み事などにも対応できるよう、藤田研、高見研、吉見研、春日研の学生の協力のもと、Zoomによる1時間～2時間の上級生との交流機会を設けた。さらに、1年生と4年生の女子学生だけの交流機会や、1年生だけが集まる交流機会も設けた。

各回の参加者はそれほど多くはなかったものの、研究室のオフィスアワーでは、1年生の関心事である学業とアルバイトとの両立やサークル活動などに対して、上級生がアドバイスや情報を与えることで、1年生の不安を解消できていた。さらに、1年生と上級生との繋がりや1年生同士の繋がりをつくるきっかけになり、今後の1年生の大学生活にとって有意義であったと考えられる。

- ・2020年6月12日（金）の学科会議において、オンライン電気基礎実験の実施状況報告書を確認し、オンライン実験の実施状況に関して情報を共有した。
- ・2020年7月10日（金）の学科会議において、（1）今年度のグローバルPBLの実施について、今後の実施可否の判断プロセスを整理し、検討を行った。（2）後期の電気計測実験のオンライン実施方法についても検討を行った。（3）卒業研究1,2において、zoomを用いたオンライン発表形式について検討を行った。
- ・2020年9月11日（金）の学科会議において、（1）コロナ禍中での学科運営、研究指導、講義等のフォローワーク体制について確認をした。（2）電気工学科オンライン授業での評価に関する情報交換アンケート結果を踏まえて、オンライン授業に関する情報交換を行った。（3）後期「電気工学ゼミナール」「電気実験4」の運用方法について検討を行った。（4）オンラインで実施するグローバルPBL「Power system control training」について実施計画を確認した。
- ・2020年9月15日（火）14時～16時に、「電気工学科1年生大宮キャンパス見学会」を実施した。当日は、集合場所を2201教室と2202教室に分けて、感染防止と密にならないように配慮して、大学施設（大宮校舎）の見学やキャンパスの雰囲気を感じて友達作りや情報交換などの機会を設けることとした。
- ・2020年9月23日（水）午後の工学部入学式終了後、昼食を済ませた後に、「電気工学科1年生豊洲キャンパス見学会」を実施した。当日は、集合場所を407教室と408教室の2教室に分けて、密にならないよう配慮した。感染防止と密にならないように配慮して、豊洲校舎の施設の見学やキャンパスの雰囲気を感じて友達作りやサークル活動などのきっかけづくりとし、見学・交流の機会を設けた。

以上。

2021年1月31日

電気工学科

2020年度 電気工学科 「社会連携・社会貢献」とりまとめ資料

電気工学科教員により、以下の「社会連携・社会貢献」が行われている。

■松本聰

- 1.電気学会 副会長(編集出版担当)(2019年5月～2020年6月)
- 2.文部科学省 科学技術・学術審議会専門委員(2019年4月～2022年2月)
- 3.原子力規制委員会 技術評価検討会 外部評価委員(2019年4月～2021年3月)
- 4.(一財)日本建築センター 防災機器性能審査委員および防災機器性能評定委員(2018年10月～2020年3月)
- 5.国土交通省 中央建設工事紛争審査会 特別委員(2018年11月～2020年11月)
- 6.(一財)電力中央研究所 雷リスク調査研究委員会 委員(2017年4月～2022年3月)
- 7.一般社団法人 日本電線工業会 第20委員会 委員長(2019年4月～2021年3月)

■下村昭二

- | | |
|----------|--|
| 2017年4月 | 電気学会出版事業委員会 |
| 2017年4月 | 電気学会出版事業委員会 教科書・専門書部会 |
| 2019年3月 | ICEMS2020 (The 23rd International Conference on Electrical Machines and Systems) 組織委員会 |
| 2019年4月 | 電気学会顕彰選考小委員会 |
| 2019年4月 | 電気主任技術者試験委員 |
| 2019年10月 | 電気学会産業応用部門用途指向形次世代モータの高性能化技術動向調査専門委員会 |

■春日伸予

<学外委員会等>

1. 警察庁 高齢運転者事故対策有識者会議 委員
2. 国土交通省 国土交通技術行政の基本政策懇談会 委員
3. 自動車安全運転センター 評議員

<メディア出演>

1. 春日、高速道路の逆走防止、TBS ニュース番組「Nスタ」出演、2019年12月

以上。